

里だより

No.394

令和6年11月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



かき氷会&花火大会

秋だけど...夏満喫しました(▽)/



十一月号もくじ

(ページ)

施設長より……………1

サビ管より……………2

主任より……………4

職員より・医務より……………5

サービス向上委員会より

行事報告……………6

研修報告……………7

行事予定……………8

ありがとうございました

編集後記……………9



施設長より

好きを知る



九月末に第三者評価を受審し、行楽シーズンの十月に突入。利用者スポーツ大会、県の実地監査、福祉まつり、秋の里まつりと毎週何かしらのイベントなどがあり、目まぐるしい日が続く、まさに怒涛の一月でした。併せて、十一月の中間報告理事会、個別支援上期経過報告の準備も並行して行っています。気ぜわしく日々が過ぎていきますが、こう忙しくさせていただいているのも利用者さんやつくしの里に関わっていただいている皆様のおかげと感謝しながら過ごしていきたいと思っています。

本誌でも、以前からスタッフには趣味を持ち、プライベートの充実やそれが利用者支援につながることであればありがたいと話をしてきました。自分の趣味について寄稿したスタッフも多いかと思えます。かくいう私も幾度か書かせてもらったところ、同じ趣味を持つご家族から、「今度〇〇の話をしませう」とお声掛けいただくこともありました。当然話は盛り上がります。現在も下手の横好きは継続中で、いい具合に気分転換と思っているとこそですが、何をしても仕事に結びつけてしまうのは、もう職業病に近いものだと諦めています。その一つに、いつの間にか趣味となっている登山。周囲からは田舎で育って、田舎に勤めているのに、まだ自然に没入するんですかと突っ込みをくらっています。緑や自然を求めようになるのは、年を取ったことらしいです。もう否定はしません。山に登っていると「この景色を利用者さんに見せたいなあ」、「誰か利用者さんで登れる人いるかなあ」とい

う具合に考えてしまいます。

昨年七月に九重連山の三俣山に登って、すがもり越分岐まで下りてきたときに、ひと組の親子に出会いました。息子さんは障害を持っていて、ゆっくり歩を進められます。お父さんに話を聞くと大曲登山口からきて、引き返すところとのこと。携帯のアプリで調べると、片路一七kmほどあります。二kmありませんが、山は、やはり山。舗装路はなく、小石もあれば、こぶし大の浮石もある。当然同じ歩幅では進めず足元を確認しながら進まなければなりません。登山をされた方はお分かりと思いますが、登りよりに下りに神経を使います。息子さんは、下りる際に、一つ一つ石を選びながら足を運び、大きめの石の時には両足を小刻みに動かしながら一度揃え、ぴよんと飛び乗られます。父親は少し先に歩いていき、息子さんが来るのを待ち、また先を歩くを繰り返されます。ケガとか心配ではないかと尋ねたところ「本人が好きだから」とのこと。父親も時間を作りよく山に連れて行っているそうです。慌てずのんびり、本人のペースに寄り添って。そして、本人の好きなことをしっかりと熟知している。利用者支援の中で見失いがちな何かを教えてもらったような気がしました。

支援計画を目標に向けて進めていく上では、本来何のための目標なのか。その進め方を私たちは間違っていないか。当然、外に出ればリスクはつきもの。「出来ないかも」では、何も出来ない。「出来るかも」で動かなければ何も出来ない。下期のモニタリングを進める際に、気にかけて取り組みたいと思います。利用者さんを知ること意識させられた出会いでした。

施設長 松永一博

サビ管より

視野を広く



秋の気配を感じたかと思えば、半袖で十分な日もあり、本格的な秋の到来とまでにはいかないようです。つくしの里では、去る十月二十六日に秋の里まつりを開催しました。今年度は、地域の方や外部の方々をお招きし、コロナ禍前に近い形で秋まつりを行いました。当日ご来園下さった方、久々の秋まつりはいかがが良かったですでしょうか？また、準備から当日までご協力いただいたご家族の皆様方には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、秋まつりに限ったことではありませんが、担当者や各部門の担当者は、どれくらい視野を広くして取り組んでくれたのだろうか？と考えたりします。自分の部門ばかりにとらわれすぎると、周りが見えなくなります。おのずと周囲との調和が取れなくなり、自分は自分、周りは周りという区分けをどこかでしてしまいます。自分の足元をしっかり固めることも勿論重要ですが、度を超すと方向を間違えたり、ぶつかったり、はぐれたりする危険性があります。周囲を見渡すことが出来れば、仲間と共に足並みをそろえて進むことが出来、「視野を広くもつ」とはそういうことだと思います。

また、今年度から職員には外部研修にも率先して参加してもらっています。「新しい発見があった」「自分のためになった」と活

気に満ちた表情で報告してくれる人もいて、研修の意義を感じ取ってくれたことは心強く、ありがたいことです。しかし、本当に重要なのは、そこから先の自分自身の変化だと思います。どれくらい知識を深め、視野を広められるか。何も変わらないのでは意味を成しません。学んだことを現場で活かすためにどう動けばいいか、考え方や視野にどれくらい変化を加えられるかが求められます。

対人関係においても声の掛け方や接し方、感情的な関りではなく、考え方や意見の違いにどれだけ調和が図れるか、周囲の状況にどう配慮できるか等々、職員の成長に期待しています。

視野の広さは様々な経験を通して身につくと同時に、変化を求めるときに身につけてきます。自分の〇〇を伸ばしたい、〇〇を改善したいという向上心がきっかけになるのではないのでしょうか。当たり前のことですが、人は自分が大事です。だからこそ、他の誰かを思いやる気持ち、周りを見渡すことのできる視野の広さが大事だと思います。

誰しも一人で生きていけません。誰かの手助けが必要です。食事するにしても生産者がいておいしい食事が食卓に並び、電気機器も電力会社や電機業者がいて使えます。様々な方のおかげで成り立っています。だからこそ、「視野を広くもつ」ということが大事だと思います。

毎朝欠かさず新聞を読むことが私の日課です。デジタル化が進んでいます。紙の新聞の良さがありません。国内情勢、世界情勢、スポーツや県内ニュースなどが記載されており、世の中のことを

皆楽しみ月 1 回のドーナツ販売🍩



支援係長 竹下 幸樹

理解できます。知見を広めるまでにはまだまだいきませんが、私自身、視野を広げるために新聞を読む習慣は続けていくつもりです。活字にホッとします。明日も朝から癒されたいと思います。



施設 PR 委員会 今月の 1 枚!

夏の終わりに
花火をしたよ～🎆



主任より

つつしの里のおまつり



当施設は平成三年八月一日に開園しました。以降、八月一日は開園記念と同時に、地域の皆さんに日頃の感謝を伝え、交流を深めることを目的に『夏まつり大会』を行ってまいりました。

職員で櫓を建てステージを組み、提灯を灯した会場には八〇〇人以上の来場者がありました。利用者の出しもの一つとして、大津町音頭と炭鉾節を踊り、まつりのクライマックスには会場みんなで踊りました。全体が一丸となった感じが、私にはとても感動的でした。

職員は甚平と浴衣を着て、汗だくになりながらも夏を感じる良い時間でした。大会の終わりに花火を上げたこともありましたが、抽選会が始まってからは、それを楽しみに来る方がどんどん増えていったように思います。

当時のまつり準備は、七月に入ると本格的になり、館外の草刈りや整備を行い、テントを建てて、二〇日頃にはまつり会場ができていたように思います。それなのに、台風情報が発令されて、やむなく片付けをして、再度建てて…。天気との闘いでした。踊りや出し物は利用者の方が覚えられるように毎日練習していました（実は職員の方が踊れず、利用者の方に教えてもらっていたように思います）。まつりは職員の度胸やリーダーシップが養われる機会ともなっていました。準備の段階から利用者・職員共に、意気込みは夏の暑さに負けていませんでした。

次第に、夏が暑すぎて準備も大会も難しくなり、『秋の里まつり』と称して、十月の最後の土曜日の日中に開催することになりました。

コロナ禍を経て、今年度は一般の方をお迎えしての『第八回秋の里まつり』。五年前はどうだったっけ？と言いながら、少し緊張しつつ準備を進めました。子どもから大人までが楽しめるおもてなしが出来ればいいなと思っていました。

この便りが届く頃は、秋の里まつりも終わっています。ご来場いただいた皆様、いかがだったでしょうか？感謝の気持ちは伝わったでしょうか。地域の皆さん、利用者の方、職員にとってよい思い出になっていたら大成功だと思います。

主任支援員 池田 亜紀



職員より



今年の1月に育休から復帰しました。産休・育休期間中は大変お世話になりました。ありがたいことに、次女が6か月から保育園に通うことができたので、早めに復帰することが出来ました。頑張って通う子供たち、育児・家事共に協力的な夫と、預けられる環境があることに感謝です。育休期間、(※あくまでも私の場合です!)子どもと自宅で過ごしていると、外部(世間…)との接点が少なくなりとても不安になりました。子育ての事はもちろん、仕事の事、復帰後の事等々考え込むと、どんどんマイナスな思考になってしまいます。復帰して早10か月、そんなマイナスな事を考える時間もないくらいあっという間に過ぎてしまいました。

私の担当するIさんは、活動の始まりに号令をかけるのが日課です。Iさんの挨拶で「今日も1日始まるんだな!」と感じます。最近では開園記念祭で開会の挨拶を行ったり、敬老会でお祝いの言葉を述べたりと、活躍の場が広がっています。緊張しがちなIさんですが、何度も練習を行い、その成果を発揮した時の満足げな表情がとても素敵です。その満足げな表情がたくさん見られるよう、これからも色々なことにチャレンジし、楽しい時間を作っていきます。
(支援員 尾崎)

4月につくしの里に入職し、気が付けば8カ月目に入りました。先輩職員の方々から業務を一から教えていただき、利用者さんからも学ぶことが多々あり、毎日があっという間に過ぎていきました。少しずつ業務を覚えてきて、これからもっと担当利用者さんとの関りを深めていこうと思った矢先、担当利用者さんが永眠されました。挨拶をしてくれるようになった時や私に笑いかけてくれた時には、少し距離が縮まったと思いき嬉しかったです。短い時間しか一緒に過ごせませんでしたでしたが、多くの事を私に教えてくれました。ありがとうございました。

振り返ると色々な事があり、日々学ぶ事が多く大変だと思う時もありましたが、利用者の皆さんの「ありがとう」の言葉に背中を押されています。先輩方のような支援にはまだまだ遠く及びませんが、利用者さんと向き合う姿勢を大切に我武者羅に頑張っていきたいと思えます。
(支援員 高尾)

医務より



寒暖の差で体調が変化しやすい時期になりました。普段できる手洗い、手指消毒、うがいこれまで以上に心がけていきたいと思えます。これからインフルエンザや感染性胃腸炎が流行する季節に入ります。インフルエンザの予防接種は、11月21日に2回目の健康診断とともに施設で予定しています。

今月号に歯科検診の結果を同封します。治療の必要がある利用者さんは順次進めていきます。結果について、不明な点などあればいつでもご連絡ください。

(お知らせ)

重心医療の負担額が変更になっています。外来1,020円→1,000円、入院2,040円→2,000円。また大津町から重心医療を受けている方で現物支給対象の方は、1回の窓口負担が1,000円になっています(病院、薬局とも)。
(看護師 松村)

サービス向上委員会より



■ 施設PR【主任支援員 平田・支援員 田中・野口】

つくしの里を多くの方に知ってもらうために、里だよりの「今月の一枚」の写真、SNS（インスタグラム）の投稿、福祉まつりへの参加等、施設のアピールになるような活動に取り組んでいます。毎月里だよりに掲載している「今月の一枚」は素敵な写真が多くどれにしようかととても悩んでいます。SNSは現在、近隣の福祉施設、利用者さんのご家族、職員、就職フェアで話を聞きに来てくれた方など約100名の方にフォローして頂いています。いつもコメントや「いいね！」ありがとうございます♪ 今後も行事や日常風景を投稿していきますのでお楽しみに(^▽^)

他にも人材確保推進委員会と連携して人材の確保に尽力しています。人手不足が少しでも解消されるようつくしの魅力を発信し、人材確保、つくしの里の知名度アップを狙いPRを続けていきます。

行事報告 ※ 9/21（土）～10/20（日）の実施分について報告いたします

★ かき氷会【9月26日（木）つくしの里】

9月の後半になっても暑さが残る中、かき氷会を行いました。事前に利用者さんの希望について聴き取りを行うと「〇〇味が食べたい」「お替りしても良いと？」等、大変楽しみにされていました。当日も気温が高く、絶好のかき氷日和となり、定番のいちご味やブルーハワイなどの他、アイスクリームやホイップクリームをトッピングして自分なりの味を楽しめました。

意外にもレモン味の評判が良く、次回も絶対ラインナップに入れて欲しいとの感想が多く上がったので、取り入れたいと思います。（支援員 井）



★ 花火大会【10月8日（火）つくしの里】

毎年恒例になりつつある花火大会！夕食を終えてから、中庭などで行いました。18時を過ぎ、辺りは暗くなり、花火がとても綺麗に見える時間帯でした。利用者さんは手持ち花火に、目をきらきらと輝かせ、楽しまれていました。最後にはメの打ち上げ花火で夏を締めくくり、「何歳になっても花火は綺麗だね」と感想を話されている利用者さんもいらっしゃいました。（支援員 尾崎か）



研修報告

※ 9/21（土）～10/20（日）の研修について報告いたします

◆全国知的障害者福祉関係職員研修大会【10月3日（木）～4日（金）福井市フェニックスプラザ】

人生初の福井県まで研修に行かせていただきました！



大会のテーマは“今こそ学び、語り合い、深めよう、「私たちのウェルビーイング」～楽しみは〇〇のとき～” 新型コロナウイルス、国際社会の不安定な動向、自然災害の増加、デジタル技術の急激な進展など目まぐるしい変化。また、貧困や差別、社会的孤立など、人と人との繋がりの分断が深刻化する一方で、SDGs が唱えられ、地球レベルで調和やよりよい社会づくりを目指そうとする新たな動きも活発化しています。こうした予測不可能な時代をどう生き、どう利用者さんの支援に繋げていくべきか？近年社会的関心が高まっている「ウェルビーイング」に着目し追求する2日間でした。

1日目は行政報告、基調講演「当事者の立場から考える自立」、情報交換会。

2日目は、分科会「キャリアウェルビーイングについて 障がいのある人もない人も共に幸せに生きるための視点を語り合おう！～楽しみは願いの先に小さい光見えしとき～」というテーマ。私たち職員は、利用者さんの幸せを願いながら支援に日々奮闘努力を重ねていますが、サービスや社会資源の不足、まだまだ選択肢が少ない中で「本人さんはどう思っているのか」思い悩むこともあると思います。障がいのある方々が生きてきた物語を共有し、それぞれが「私らしく」生きるために大切な視点を学び、また、職員としてなぜこの仕事を選んだのか、なぜ続けて来られたのか、どんな壁にぶつかっているのか、職員の「働きがい」についても考える機会となりました。

意思決定支援が謳われる中、特に日常的な選択の場面で私も強く意識しますが、支援計画書などに御本人の要望が反映されているか、本当に生きていきたい人生を歩むことができているだろうか、毎日楽しい嬉しいと感じることがどれくらいあるだろうか、ふと考えます。日々小さな幸せを感じていただきたいと思う一方で、矛盾した支援をしていることもあるように思います。利用者さんと関わる中で、経験・選択肢が少ないために、尋ねても話が広がらないという事もあります。幅広い選択肢を持つには、様々な経験が必要であり、五感を通して感じることは大切だと思います。

また、少し寂しいですが、支援者は友達にも家族にもなれない、支援者がやることには限界がある、ピアな関係だからこそ安心して支え合い高め合えるという仲間環境の重要性についても学びました。

これから、利用者さんの想いを何か一つ叶えることを目標に利用者さんに向き合い、自分自身も働きがいや仕事への向き合い方、自分らしさについて考え、利用者さんと一緒に日々を丁寧に生きられたらいいなと思っています。

大会の冒頭、震災と豪雨による被害に見舞われた石川県の復興状況についてお話があり、輪島市では、元旦の地震から11日間かけて障がいのある方々で温泉を復旧させ、毎日お風呂掃除を行い地域の方が入浴できるように支援して来られ、9月20日までの間にのべ5万6千人の方々が温泉を利用され、9月22日の豪雨被害からは10月3日午前に再び温泉を復旧させたとのこと。「支援する側される側ではなく、地域に暮らす一員としてお互いに支え合う」エピソードに強く感銘を受けました。

～🔍NOTO, NOT ALONE～

物の購入や寄付による復興支援ができ、様々な取り組みについて知る事ができます。

チェックしてみてください。

（主任支援員 中尾）

★ 九州地区施設長等研修大会【10月9日（水）～10日（木）ホテルニュー長崎】

「社会福祉のリーダーシップ～エッセンシャルワーカーの使命と役割～」が大会テーマで、1日目は行政説明と記念講演、2日目は「虐待防止と福祉経営」「地域生活のための意思決定支援と地域生活コーディネート」の2つの分科会に参加させて頂きました。

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定から半年が経過し、その内容と今後の動向について説明がありました。制度は改正され続けるため常に新しい情報を把握し、施設全体で内容の把握が出来るよう努めていきたいと思いました。

「虐待防止と福祉経営」の分科会では、虐待防止と人材育成は密である事、そして何よりチーム支援が重要であることが強く印象に残りました。一人で抱え込まない、風通しの良い職場づくりに努めたいと思います。また利用者の権利擁護も重要になってきます。一人一人の尊厳を大切に、豊かな生活を送れるよう支援を行います。

「地域生活のための意思決定支援と地域生活コーディネート」の分科会では、利用者さんが望む生活が可能となるよう意思決定の支援、また意思の表出が困難な方に対しては本人をよく知る関係者が集まり最後の手段としての最善の利益の検討を行う事が大切である事を学びました。障害の有無にかかわらず誰もが意思決定が行なえる社会を築けたらと思います。

他施設の実践報告を聞くことで講義を受けながら感じた事、考えた事が沢山ありました。また他施設職員との交流もあり刺激的な2日間になりました。今回感じた事、学びを活かし今後の支援にあたりたいと思います。



（支援員 田中）

行事予定

11月

☆ 面談・通帳確認（つくしの里）

期 日：11月1日（金）～30日（土）

内 容：日程は担当職員より電話でご連絡いたします。



☆ 生活介護班⑤班一泊旅行（瀬の本高原ホテル）

期 日：11月13日（水）～14日（木）

内 容：8月末の台風で延期していた旅行ですが、今回は秋の燃えるような紅葉を見に出掛けたいと思います。



☆ インフルエンザ予防接種（つくしの里）

期 日：11月21日（木）

内 容：インフルエンザの流行が懸念されますので予防に努めます。

☆ やさしさいっぱいコンサート（大津町生涯学習センター文化ホール）

期 日：11月23日（土）開場：午後13時00分

内 容：保護者会様主催のコンサートです。皆で歌って踊って盛り上がりたと思います。



ありがとうございました

今月の掲載分は、
令和六年九月二十一日

令和六年十月二十日です



【寄付・寄贈】

- ・井本チカ子様
- ・藤田孝志様
- ・前原透様
- ・つくしの里保護者会様
- ・岩根治美様
- ・光永順子様
- ・宇野明美様



【ボランティア】

- ・村里和洋様
- ・丸山典子様
- ・木本ふじ子様
- ・カモメ様
- ・トキコロ様



誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。

※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載・確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら、何卒ご容赦していただきたく存じます。

編集後記

十月は利用者さんの個別外出、福祉まつりや秋の里まつりと賑やかでした。

その中でも、福祉まつりに売り手側で参加させて頂き、学生時代ぶりの接客、売込みの声掛けは何だか懐かしく新鮮でした。つくしの利用者さんをはじめ多くの方に来ていただいて沢山の元気をもらいました。ありがとうございました。

福祉まつりの行事報告や秋の里まつりについては次号でお伝えしますのでお楽しみに♪



お知らせ

- ① くまもと障がい者芸術展が
県立美術館分館にて11/12(火)~11/17(日)に
- ② 大津町内障がい者施設利用者作品展示会が
大津町役場正面玄関1階にて11/18(月)~11/29(金)
に開催されます。
利用者さんの作品を出展します!是非、ご覧ください(*^-^*)

